

黙示録6章3-17節 「子羊の御怒り」

1A 主から遣わされる馬 3-8

1B 戦争 3-4

2B 価格高騰 5-6

3B 死 7-8

2A 復讐される方 9-17

1B 聖徒の殉教 9-11

2B 天変地異 12-13

3B 耐えがたい御怒り 15-17

本文

黙示録 6 章を開いてください。私たちの今晚の学びは、6 章 3 節からになります。子羊と呼ばれているイエス様が、父なる神から渡された巻物の封印を一つずつ解いていきます。そして、地上に災いが下ります。

1A 主から遣わされる馬 3-8

主がその一つを解かれると、四つの生き物からそれぞれ、「来なさい」と呼ばれます。すると、馬が現れます。第一の封印を子羊が解かれたところを前回、じっくりと見ました。これが、地上に降る災いの始まりです。それが、「白い馬」でした。彼は、19 章に出てくる再臨のキリストが白い馬に乗ってやって来られるのに似ています。けれども、それは似て非なるものであり、平和の使者としてきたのに、これから災いが次々と起こるのです。

私たちが知らなければいけないことは、「真理を受け入れなければ、自ら偽物を選び取り、受け入れる。」ということです。テサロニケ第二 2 章にこうありました。「2:9-11 不法の者は、サタン働きによって到来し、あらゆる力、偽りのしるしと不思議、10 また、あらゆる悪の欺きをもって、滅びる者たちに臨みます。彼らが滅びるのは、自分を救う真理を愛をもって受け入れなかったからです。11 それで神は、惑わす力を送られ、彼らは偽りを信じるようになります。」福音の真理を受け入れないので、サタンの惑わしを自ら進んで受け入れることによって、あらゆる災いを受けるようになります。神の裁きは、このようなかたちで、自分たちが惑わされるままにされるという形で、初めに現れるのです。

1B 戦争 3-4

そして3節から見えていきます。反キリストが現れてから、何が起こるかをじっくりと見ていきます。

³ 子羊が第二の封印を解いたとき、私は、第二の生き物が「来なさい」と言うのを聞いた。⁴ すると別の、火のように赤い馬が出て来た。それに乗っている者は、地から平和を奪い取ることが許された。人々が互いに殺し合うようになるためである。また、彼に大きな剣が与えられた。

「火のように赤い馬」とあります。これは戦争の火であり、殺し合いの流血の色です。同じような火のような赤色が出てくるところがありますが、12章3節に、「炎のような赤い大きな竜」がいます。これは悪魔です。戦争や殺戮が無造作に行なわれていくその背後には、悪魔が働いていることが分かります。ヤコブは、手紙の中で「4:1 あなたがたの間の戦いや争いは、どこから出て来るのでしょうか。ここから、すなわち、あなたがたのからだの中で戦う欲望から出て来るのではありませんか。」人の歴史は、アダムとエバに生まれた子カインが、アベルを殺したところから始まりました。ヤコブは続けて、「4:2 あなたがたは、欲しても自分のものにならないと、人殺しをします。」と語っています。そして、ヨハネは第一の手紙で、人を憎むこと、殺したいと思うことは、悪魔から来ており、悪魔の子どもだと言います(3章)。反キリストが現れて、そこには悪魔の惑わしがあり、人々は、憎しみや欲望に駆り立てられて、互いに殺し合うようになります。イエス様は、オリーブ山で、「多くの人々がつまずき、互いに裏切り、憎み合います。」と語られています(マタ24:10)。

そして、「彼に大きな剣が与えられた」とありますね。つまり、戦争です。イエス様は、戦争や戦争のうわさを聞いても、うろたえてはならないと言われました。そして、「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで飢饉と地震が起こります。」と語られています(マタ24:7)。民族は民族に、国は国に敵対するとは、全面的な戦争になることです。患難時代は、戦争から始まり、イエス様が、反キリストの率いる世界の軍隊に戦われて、その戦いをやめさせるところで終わります。すでに、二つの世界大戦を終え、いつ第三次世界大戦が起こるのか、もしかしたら今の、ロシアのウクライナ侵略は第三次世界大戦の始まりなのか？という議論があります。まだ、患難時代は始まっていませんが、しかし、そうした兆候が出始めているということです。

ところで、「地から平和を奪い取ることが許された」とありますが、平和であることは正常ではなく、むしろ神の憐れみで敢えて与えられている賜物です。多くの人は、これが当然であると思い込んでいます。しかし、平和だ、安全だと言っている時に、突如として破滅が来るのが、主の日であることを、パウロはテサロニケ第一5章で話しています。

2B 価格高騰 5-6

⁵ 子羊が第三の封印を解いたとき、私は、第三の生き物が「来なさい」と言うのを聞いた。私は見た。すると見よ、黒い馬がいた。これに乗っている者は秤を手に持っていた。⁶ 私は、一つの声のようなものが、四つの生き物の真ん中でこう言うのを聞いた。「小麦—コイニクスが一デナリ。大麦—コイニクスが一デナリ。オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない。」

子羊が第三の封印を解かれました。「黒い馬」が出てきました。黒は、哀歌4章8-9節によると、食べるものがなく痩せこけて、栄養失調になっている顔であることが分かります。こう書いてあります。「8 しかし、彼らの顔はすすより黒くなり、街頭でもそれと分からない。彼らの皮膚は干からびて骨に付き、乾いて木のようになった。9 剣で殺される人は、飢えで殺される者たちより幸せであった。その者たちは、畑の実りがないために、痩せ衰えて死んでいった。」飢餓は、日照りなどの天災によるものもありますが、ここ哀歌にあるように戦争があって、それで人々が食べられなくなるという、人災もあるのです。

そして、この「小麦一コイニクスが一デナリ。大麦三コイニクスが一デナリ。」というのは、価格高騰のことを表しています。一デナリは、当時のローマの通貨であり、一日分の労賃に値する額です。一コイニクスは約1リットルです。つまり、小麦が1リットル当たり1万円、大麦が3リットル当たり1万円、という値段になっているということです。大麦は栄養価が低いため、小麦よりも安いです。貧しい人が食べるものです。けれども、それでも3リットルが約一万円であったら、誰が買うでしょうか？ 当時に、ローマ皇帝ドミティアヌスの統治で、小アジアの地方も経済破綻が起こっていたそうです。そして今、まさにウクライナにおける戦争で、食糧危機が意図的にもたらされています。世界的に食糧の価格が上昇しています。中東とアフリカは、ウクライナからの小麦に依存していたので、大きな危機を迎えています。

けれども、「オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない。」とあります。つまり戦争によって、日ごとの食べ物は物価高騰するのですが、生きるための守られるということです。オリーブ油は、頭にかけて、体に塗ったり、また灯のためにもつかわれます。ぶどう酒も、特別に毎日の生活には絶対になければいけないものではありません。つまり、貧しい人々は飢えに苦しみますが、一部の者たちには影響を与えないという状況です。価格の高騰があっても、実はその背後で儲けている人々というのは、いつもあります。戦争が起こって、一般の人々は苦しむのですが、ごく一部の人はますます贅沢に暮らすのです。

3B 死 7-8

⁷ 子羊が第四の封印を解いたとき、私は、第四の生き物の声が「来なさい」と言うのを聞いた。⁸ 私は見た。すると見よ、青ざめた馬がいた。これに乗っている者の名は「死」で、よみがそれに従っていた。彼らに、地上の四分の一を支配して、剣と飢饉と死病と地の獣によって殺す権威が与えられた。

第四の封印は、「青ざめた馬」です。この色は、死に顔の色です。その乗っている者の名は死であり、そして「よみ」つまり、死者が下るところに従っているとあります。19章において、最後の審判で死とよみが吐き出して、これらの死者をよみがえらせるとあります。よみ、ギリシア語ではハデスですが、これは最終の審判を受けるために待っている監獄のようなところです。

青ざめた馬によって「四分の一」の人が死にます。現在、世界総人口は約 80 億人ですから、今、主の日が始まれば、約 20 億人が死ぬこととなります。実に恐ろしいことです。そしてその死因も四の数字ですが、四つあります。初めに「剣」です。赤い馬の戦争から死ぬ人々です。そして「飢饉」です。価格高騰になって、また戦禍で農業が営めず、人々がどんどん飢え死にします。さらに「死病」です。食糧不足になると体の免疫も減り、死病が増えます。戦場で、兵士たちが敵の砲撃で死ぬよりも、疫病で死ぬことのほうがずっと多いと言われています。そして、「地の獣」です。戦争によって死体が転がります。それを獣が食べていきます。人体の味を知った獣が、生きた人々をも襲うことでしょう。

モーセは、神に背けばこれらのことが起こると警告した時に、剣、飢饉、死病について話していました。そして、神に背くイスラエルについて、エレミヤもエゼキエルも預言しています。「エレ 15:3 わたしは四種類のもので彼らを罰する——【主】のことば——。切り殺すための剣、引きずるための犬、食い尽くして滅ぼすための空の鳥と地の獣である。」「エゼ 14:21 まことに、【神】である主はこう言われる。「人や家畜を絶ち滅ぼすために、わたしが剣と飢饉と悪い獣と疫病の、四つのひどい刑罰をエルサレムに送るとき、」いわゆる、四方八方の苦しみです。主は、イスラエルだけでなく、全世界的に四重の災いを下されます。

2A 復讐される方 9-17

こうして、四頭の馬が出て来て、神の裁きを実行しました。次、第五と第六の封印は、こうした災いの中で殉教する聖徒たちと、また悔い改めないで御怒りを受けている者たちへの報いが現れています。

1B 聖徒の殉教 9-11

⁹ 子羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てた証しのゆえに殺された者たちのたましいが、祭壇の下にいるのを見た。¹⁰ 彼らは大声で叫んだ。「聖なるまことの主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者たちに私たちの血の復讐をなさらないのですか。」

戦争、飢饉、疫病などの災いの中で、また別の苦しみを受けている人々がいます。それが、「神のことばと、自分たちが立てた証しのゆえに殺された者たち」であります。彼らが誰であるかは、意見が分かれています。黙示録が与えられた直接の人々、アジアの七つの教会の人々から、世の終わりまでの聖徒たちという見方もありますし、5 章ですでに教会が天に引き上げられ、子羊を賛美している姿があるので、患難時代に新たに信じた人々とも言えます。7 章を見ますと、14 万 4 千人のイスラエル人が神のしもべとなり、そのために世界中から人々が殉教して、天に入れられている姿があります。ですから、患難期の聖徒たちではないか、という見方です。

いずれにしても、災いが地に降っている時に、神のみことばを守り、イエス・キリストを証ししてい

るという理由だけで殉教している人々がいるのだということでは共通しています。イエス様が、このことを語られました。オリーブ山にて、戦争があり飢饉があり、地震があると語られ、また人々が憎しみ合うということも語られている中で、こう言われました。「マタイ 24:9 そのとき、人々はあなたがたを苦しみにあわせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。」弟子たちは、イエス様に何度となく、自分たちが人々から憎まれることについては警告されていました。山上の説教の最後の幸いが、義のゆえに迫害される者ということでもあります。実にヨハネが、神のことばとイエスの証しのゆえに、パトモス島にいます。他の使徒たちはみな、殉教しました。そして今、2021年の統計では、一日に16人以上の信者が殉教しているということです。その前の年と比べると、24%増加しています。

そこで彼らが死ぬのですが、その彼は「祭壇の下」にいます。この祭壇は、幕屋にある青銅の祭壇のことです。そこで動物のいけにえが火で焼かれるのですが、神の裁きを受けていることを示しています。なぜなら今、彼らが祭壇の下にいるのは、神のさばきを地上に下すよう求めているからです。テサロニケ人への手紙第二章において、クリスチャンに苦しみを与える者たちに、神の報復があることを教えています。今、信仰のゆえに苦境にあっても、主が戻ってこられる時、福音の真理に従わない者たちは、彼らを与えた苦しみによって苦しみを受けることが約束されています。「1:6-7 神にとって正しいこととは、あなたがたを苦しめる者には、報いとして苦しみを与え、7 苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えることです。このことは、主イエスが、燃える炎の中に、力ある御使いたちとともに天から現れるときに起こります。」今、祭壇の下にいる聖徒たちは、主の日における、そのような神の報復を待っているのです。公正なさばきを行なってください。このまま、悪がはびこらないようにしてください、と頼み、願っています。もちろん、これは恨みつらみの復讐心ではありません。むしろ、聖なる神、真実な神が正しい裁きをしてくださいという訴えであります。

¹¹ すると、彼ら一人ひとりに白い衣が与えられた。そして、彼らのしもべ仲間で、彼らと同じように殺されようとしている兄弟たちの数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように言い渡された。

主は彼らに「白い衣」を与えます。これは救いを表し、清められていること、正しくされていることを示しています。つまり、彼らは殺されたのですが、救いにあずかって天の中に入ります。そして、「殺されようとしている兄弟たちの数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように」と言われます。彼らは、殉教の初穂的な存在です。これからまだ多くの信者が殉教します。彼らが死んでから、わたしは必ずさばきを下す。だから、もう少し待っていなさい、と言われていました。

そして、「もうしばらくの間、休んでいるように」と主は言われます。これまで苦しみ、痛んできましたが、天国においてゆっくり休んでいなさい、と命じておられます。神の国が立てられるとき、教会

も、また患難時代にイエスを信じた聖徒たちも、キリストとともに統治をします。患難時代に殉教する聖徒たちは、キリストが再臨された後によみがえります。それまでは、復活していませんが白い衣を来た状態で休んで、待っているのです。このように、天において彼らは休みを得ることができます。これまで信仰によって戦ってきたのですが、休息場所は天国にあるのです。このことは、もちろん教会であるクリスチャンたちも同じです。「神の安息に入る人は、神がご自分のわざを休まれたように、自分のわざを休むのです。」なさい、とヘブル書には書いてあります(4:10)。

2B 天変地異 12-13

¹² また私は見た。子羊が第六の封印を解いたとき、大きな地震が起こった。太陽は毛織りの粗布のように黒くなり、月の全面が血のようになった。

第六の封印は、大きな地震と、それにとまなう天変地異です。これから第七の封印の後に七つのラツパにおいても、第六のラツパにおいて地震が起こり、第七のラツパが吹き鳴り、その後の七つの鉢においても、最後の鉢において大地震が起こり、天変地異があります。旧約の預言者たちも、いろいろな災いが起こって、その終わりに、究極の形で天変地異があることを教えています。

大地震ですが、次のようにイザヤは預言しています。「イザ 24:17-20 地上の住民よ。恐怖と落とし穴と罠があなたに臨む。18 その恐怖の叫びから逃げる者は、その落とし穴に落ち、落とし穴から這い上がる者は、その罠に捕らえられる。天の窓が開かれ、地の基が震えるからだ。19 地は割れに割れ、地は破れに破れ、地は揺れに揺れる。20 地は酔いどれのようによろめき、仮小屋のように揺れ動く。地の背きはその上に重くのしかかり、地は倒れて、再び起き上がれない。」

この中で天の窓が開かれるとありますが、ここでも太陽が暗くなる、月が血のようになるとありますね。イザヤ 13 章 10-12 節にも書いてあります。「10 天の星、天のオリオン座はその光を放たず、太陽は日の出から暗く、月もその光を放たない。11 わたしは、世界をその悪のゆえに罰し、悪しき者をその咎のゆえに罰する。不遜な者の誇りをくじき、横暴な者の高ぶりを低くする。12 わたしは人を純金よりも、人間をオフィルの金よりも尊くする。」そして、ペテロが五旬節の時に引用したヨエルの預言にはこう書いてあります。「2:30-31 わたしは天と地に、しるしを現れさせる。それは血と火と煙の柱。31 【主】の大いなる恐るべき日が来る前に、太陽は闇に、月は血に変わる。」

¹³ そして天の星が地上に落ちた。それは、いちじくが大風に揺さぶられて、青い実を落とすようであった。¹⁴ 天は、巻物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山と島は、かつてあった場所から移された。

天の窓が開かれていますので、星が落ちてきます。イザヤは、「34:4 天の万象は朽ち果て、天は巻物のように巻かれる。その万象は枯れ落ちる。ぶどうの木から葉が枯れ落ちるように。いちじく

の木から実がしぼんで落ちるように。」と言いました。そして、天は巻物のように、山と島は、移されます。これほどの恐ろしい天変地異が起こります。

3B 耐えがたい御怒り 15-17

¹⁵ 地の王たち、高官たち、千人隊長たち、金持ちたち、力ある者たち、すべての奴隷と自由人が、洞穴と山の岩間に身を隠した。

大地震、天変地異の前では、どんな身分の人もすべて平等化されます。「24:1-2 見よ。【主】は地を荒れ果てさせ、その面をくつがえして、住民を散らされる。2 民は祭司と等しくなり、男奴隷はその主人と、女奴隷はその女主人と、買い手は売り手と、貸し手は借り手と、債権者は債務者と等しくなる。」どんな人も、神の怒りから免れることはできません。神は、このような形で人の高ぶりを打ち砕かれます。「イザ 2:10-11 岩の間に入り、土の中に身を隠せ。【主】の恐るべき御顔を、その威光の輝きを避けて。11 その日には、人間の高ぶりの目は低くされ、人々の思い上がりはかがめられ、【主】おひとりだけが高く上げられる。」このようにして、彼らは洞穴や山の岩間に隠れるのですが、死を願っても、もっと恐ろしいことを彼らは目にするのです。

¹⁶ そして、山々や岩に向かって言った。「私たちの上に崩れ落ちて、御座に着いておられる方の御顔と、子羊の御怒りから私たちを隠してくれ。¹⁷ 神と子羊の御怒りの、大いなる日が来たからだ。それがそれに耐えられよう。」

なぜ、これほど恐れているのか？それは、神と子羊の天における栄光をそのまま見ているからです。御顔にある威光の輝きに、そのままの自分では、もう耐えることができないと叫んでいるのです(イザヤ 2:21 参照)。罪ある者は、聖なる神をそのまま見ることはできません。唯一、イエスの流された血を心に注がれた者のみが、そのまま神を見ることができます。しかし、彼らはその血を流された犠牲、子羊とイエス様が呼ばれるそのわざを受け入れなかったので、その御怒りの神の姿をそのまま見てしまい、それでもう耐えられないと叫んでいます。

だからこそ、「イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも、あなたの家族も救われます。」という聖書の言葉があります。私たちは学びました、「I テサ 5:9 神は、私たちが御怒りを受けるようではなく、主イエス・キリストによる救いを得るよう定めてくださったからです。」そしてローマ 5 章 9 節には、「ですから、今、キリストの血によって義と認められた私たちが、この方によって神の怒りから救われるのは、なおいっそう確かなことです。」とあります。救われる道は備えられています。御名を信じ、キリストのうちにいるなら、すでに救いが約束されているのです。